

## オープン市場短信 (2012年8月)

2012. 8. 09

### ◆ 7月のCP市場動向

7月のCP新規発行額は約4兆2000億円となり、期落ち（約3兆6200億円：当月発行分含む）を5800億円上回る結果となった（除く、相対発行・金融機関発行CP・ABC P）。

一般事法では、賞与資金対応の他にも調達ニーズが強く、鉄鋼・電機・機械中心に幅広い業種で新規発行案件が確認された。

月末残高は、前月比3400億円増加し15兆9640億円であった。業態別の内訳は、ABC Pが大幅減少（-18.34%）し、金融機関（-2.14%）も減少した。しかし、4月以降発行増加が続いている一般事法（+14.49%）や、その他金融法人の増加（+1.34%）により、減少分を補う動きとなった。

発行レートは、引き続き投資家やディーラーの購入ニーズが強く、多くの銘柄で弱含み横這い推移となった。電機メーカーや電力会社の一部に対しては、運用サイドの慎重な運用姿勢は変わらず、レートは強含み地合い継続であった。新発3M物の発行レートは、最上位銘柄（a-1+格）で0.107~0.132%、一般事業法人（a-1格）で0.109~0.138%、その他金融銘柄（a-1格）では0.108%~0.123%。

### 【業態別残高内訳】

（単位：億円）

業 態	7月末残高	6月末残高	増減
一般事法	59,237	51,739	7,498
その他金融	55,405	54,669	736
金融機関	26,162	26,764	▲ 602
（政府系金融	500	530	▲ 30 ）
（銀行等	11,030	11,210	▲ 180 ）
（証券	14,632	15,024	▲ 392 ）
ABCP	18,836	23,068	▲ 4,232
計	159,640	156,240	3,400

（注：買入消却分含む）

【格付け別の発行レート】

7月のCPLレートレンジ

(単位 %)

格 付	1ヶ月	2か月	3か月
a-1+(一般事法)	0.1030% ~ 0.1130%	0.1035% ~ 0.1085%	0.1070% ~ 0.1320%
a-1 (一般事法)	0.1057% ~ 0.1240%	0.1069% ~ 0.1250%	0.1090% ~ 0.1380%
a-1+(リース銘柄)	0.1018% ~ 0.1038%	— ~ —	0.1080% ~ 0.1100%
a-1 (リース銘柄)	0.1070% ~ 0.1230%	0.1098% ~ 0.1140%	0.1080% ~ 0.1230%
a-2	0.123% ~ ケ 0.25	0.131% ~ ケ 0.30	0.130% ~ ケ 0.40

《CPオペ》

CP等買入オペは13日・25日と2回の入札を行い、オファー額は各回3千億円にて実施された。12日の金融政策決定会合において、

CP買入れにおける入札下限金利の撤廃が発表された。入札方式も利回り方式に改められ、25日オファー分から新方式での入札となった。いずれのオペもディーラーの応札ニーズが強く、平均・足切りレート共に上昇する動きとなった。月初から、期落ちを上回るペースで発行が続いていたこともあって、ディーラーのオペ玉保有が増加していたと思われる。

7月末の買入オペ残高は、1兆6971億円（前月比1530億円減）となった。

日銀(資産買入等の基金)によるCP買入れオペ実績

(単位:億円)

実施日	実行日	オファー金額	応札額	落札額	按分・全取	平均落札	按分比率
7月13日	7月19日	3,000	7,291	2,840	0.010%	0.011%	79.0%
7月25日	7月30日	3,000	8,660	2,920	0.111%	0.112%	0.0%

(注) 7/13オファー 下限利回り(年0.1%)からの利回り較差方式

(注) 7/25オファー 利回り方式

《ABC P》

ABC Pは、前月比4230億円の大幅減少となり、5月以来再び1.9兆円を割り込み、発行残は1兆8836億円となった。

《短期社債登録状況》

7月の新規発行企業は、JKホールディングス、ヒューリック(旧昭栄)が発行し、通算の発行企業数は521社。月末時点における発行登録(証券保管振替機構)企業数は、登録の取り消しが2社あり497社となった。

#### 《CP現先市場》

現先（S/N）レートは、7月前半は落ち着いて推移（0.10%近辺～0.105%）していたが、月後半レポレートの強含みにより、0.105%～0.11%近辺での出会いとなった。

#### ◆ 8月のCP市場動向

8月中のCP償還額は約3兆3300億円で、前年同月の償還額（約4兆1600億円）を下回っている（除く、ダイレクトCP・金融機関発行CP・ABC CP）。

今月の発行動向は、お盆休み・夏季休暇等から、月後半からの発行増が予想される。一般事法は、中間期末の有利子負債圧縮目的で、9月償還の1M物中心に発行を行うと見られる。

発行レートは、ショートターム物や高格付け及びレア銘柄については、投資家ニーズが強く低位安定推移と思われる。一方、電機メーカーや電力会社の一部、発行頻度の高い銘柄については、運用サイドのビッドが退き気味となっていることから、強含み地合いを予想する。一般事法（a-1格）3M物では、0.100%台後半～0.14%台、その他金融で0.110%前後～0.15%台での出会いと思われる。

#### 《CPオペ》

今月は、10・27日に2回の入札が実施される予定。オペ（足切り・平均）レートは、需給により中々低下しづらい状況であり、0.100%台後半～0.110%近辺を予想する。月末オペ残高は、1兆7000億円前後と思われる。

#### 《CP現先市場》

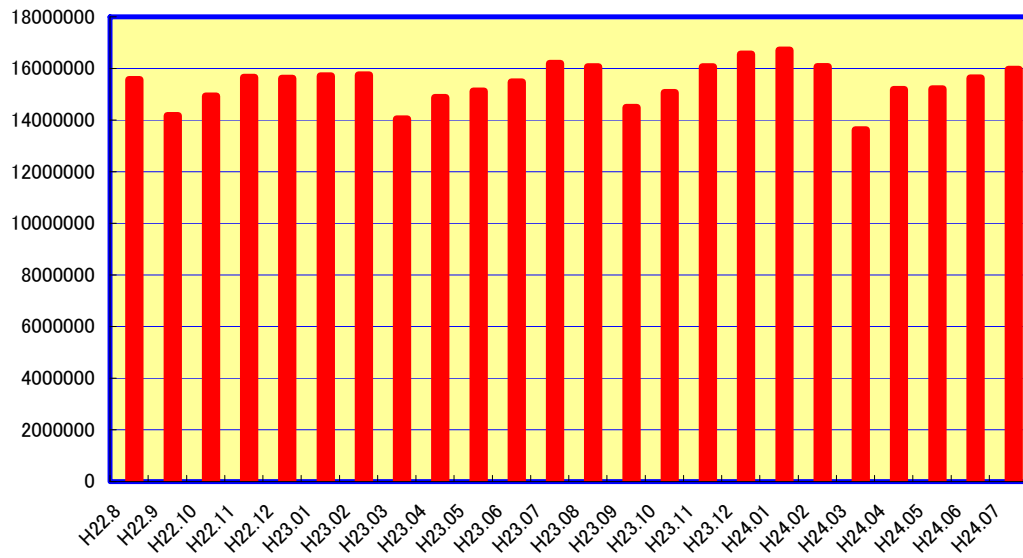
日銀の潤沢な資金供給姿勢は、今月も変わらないだろう。インターバンクレートは0.08%前後での推移。レポレートは、今月も需給如何では強含みとなる地合いが予想される。CP現先レートは、レポレートの動きを受けつつ、0.100%台前半～0.11%での出会いとなるのではないかと。

**参考資料**

**短期社債月末残高** (23年7月～24年6月)

発行登録企業：497社（発行実績あり521社）

（過去2年間の残高を表示）



7月末発行残高ベスト20

7月末発行残高上位20社

(単位:百万円)

	発行企業名	7月末残高	6月末残高
1	三菱UFJリース	733,000	734,900
2	三井住友ファイナンス&リース	720,800	745,000
3	東京センチュリーリース	620,400	615,600
4	コンチェルト・レシーバブルズ・コーポレーション	592,980	669,540
5	みずほフィナンシャルグループ	500,000	500,000
6	JXホールディングス	440,000	433,000
7	三菱UFJモルガンスタンレー証券	409,300	435,100
8	パナソニック	380,000	326,000
9	東芝	354,000	80,000
10	エイペックス・ファンディング・コーポレーション	341,660	429,200
11	興銀リース	337,900	333,300
12	芙蓉総合リース	325,700	327,700
13	JA三井リース	316,000	316,000
14	アルカディア・ファンディング	311,730	335,280
15	シャープ	307,500	350,500
16	みずほ証券	290,100	294,100
17	JFEホールディングス	281,000	53,000
18	野村証券	274,000	255,000
19	大和証券	243,380	294,100
20	オリックス	237,300	231,700

参考出所 (株)証券保管振替機構

本資料は投資環境等に関する情報提供を目的として作成したものです。本資料は投資勧誘を目的とするものではありません。有価証券等の取引には、リスクが伴います。投資についての最終決定は、投資家ご自身の判断と責任においてなされるようお願いいたします。当社は、いかなる投資の妥当性について保証するものではありません。記載された意見や予測等は作成時点のものであり、正確性、完全性を保証するものではありません。今後予告なく変更されることがあります。

上田八木短資株式会社

登録金融機関 近畿財務局長(登金)第243号

大阪本社 〒541-0043 大阪府中央区高麗橋2丁目4番2号

東京本社 〒103-0022 東京都中央区日本橋室町1丁目2番3号

加入協会 日本証券業協会